

健康相談活動場面における熟練養護教諭と新人養護教諭の 実践的思考様式に関する比較研究

— 初期対応場面に注目して —

梶原 舞*・山梨八重子・松田芳子・入谷仁士・永田憲行

Practical Thinking Styles of Yogo Teacher : Comparing Experts' Activities with Novices at the Initial Stage of Health Counseling

Mai KAJIWARA *, Yaeko YAMANASHI, Yoshiko MATSUDA, Hitoshi IRITANI and Noriyuki NAGATA

(Received October 1, 2010)

1. はじめに

今日、養護教諭の行う健康相談活動へのニーズが高まってきているのは、現代社会の変化に応じて子どもを取り巻く環境も変化し、子どもの心の健康問題が複雑になり、深刻化してきていることからである。

このような背景から平成9年9月保健体育審議会答申において、「健康相談活動」が養護教諭の「新たな役割」として提言された。この提言の基になっているのは、第15期中央教育審議会答申（平成8年）において、近年のいじめ、不登校等の深刻化を指摘したなかで、「身体的不調の背景にいじめなどの心の問題にいち早く気づく立場にある」養護教諭と位置づけたことにある。これを受けて、保健体育審議会答申は、養護教諭の「新たな役割」としての健康相談活動を提言し、健康相談活動を次のように定義した¹⁾。

「養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に生かし、児童生徒の様々な訴えに対して、常に心的な要因や背景を念頭において、心身の観察、問題の背景の分析、解決のための支援、関係者との連携など心と体の両面への対応を行う活動」

その後、1998年の教育職員免許法の改正で、専門科目として「健康相談活動の理論と実際」という科目が設定されたのである。

ここに示されたような養護教諭のかかわり方は、既に現場では行われていることであり、養護教諭の独自

な活動として研究者たちも位置づけ、それは「相談活動」といわれてきた²⁾。それが子どもたちの健康問題の多様化深刻化の中で、改めて行政的視点から位置づけられたといえる。

健康相談活動場面では、さまざまな問題や悩みを抱えた児童生徒が保健室に来室し、それに対して養護教諭はそれぞれに応じて対応する。その際の対応の選択や判断過程には養護教諭の経験の蓄積が影響すると思われる。実際の健康相談活動場面では、目に見える言動の水面下では深い思考や思いが巡らされている。その結果としての判断は発言として表出されていると考える。このように健康相談活動では、養護教諭により高い専門的能力が求められており、それがどのような専門的能力なのか明らかにすることが課題であり、様々な視点から研究がなされている³⁾。

そこで本研究では、健康相談活動で養護教諭に求められる専門的能力に迫るために、熟練養護教諭の判断を含む思考様式やその内容を、新人のそれと比較検討することにした。

2. 教師の実践的思考様式に関する先行研究の検討

本研究を進めるにあたって、専門職としての教師の実践的思考様式をテーマにした佐藤学ら^{4) 5)}の一連の研究に注目した。佐藤は実践的思考様式を次のように説明している。

「熟達した教師らが彼らの専門的領域である授業に

* 熊本大学教育学部教育研究科

において、教師特有の豊かな知見と見識を形成し機能させている『実践的知識』を活用して、実践的な場面に積極的に関与し、教室で生起する複雑な事象の相互の関連を見出しながら、不確かな問題の発見に探りを入れ、その問題の表象と解決を行っているとし、また、熟達した創造的な教師たちは、単に『実践的知識』において豊かであるだけでなく、それらの『実践的知識』の形成と機能を有効に達成する特有の思考様式をも形成している。『実践的知識』を基礎として営まれる教師の実践的な状況への関与と問題の発見、表象、解決の思考の様式を『実践的思考様式』と呼ぶ。」

佐藤の指摘によれば、熟練教師の＜実践的思考様式＞の特性をあらわすものは、「即興的思考」であり、多元的な視点から捉え、瞬時に状況をつかみその対応策を立てていくものといえる。さらにもうひとつの特性として「反省的思考」を挙げている。「反省的思考」は、「行為の中」「行為の後」で展開するものである。

佐藤らの研究では、教科指導の授業場面のビデオを素材に、【オンライン・モニタリング】と【オフライン・モニタリング】で、発言の逐語録と書かれた文章を文節、文章の量的分析・検討と、発言や記述されたものを内容別に分類化し、その特徴を新人教師と熟練教師との比較で明らかにしている。その結果から以下のような結論を導き出している。

- ① 熟練教師は、授業過程の「即興的思考」に優れていること。
- ② 熟練教師は、授業場面で変化する子どもの学習過程に即応して、授業の多様な可能性を探る方法で、実践的な表象や解決を行っていること。
- ③ 熟練教師は、多元的な視点から授業の複合性に接近していること。
- ④ 熟練教師は、授業と学習の文脈に即した思考を行っていること。
- ⑤ 熟練教師は、授業の諸事象相互の複雑な関係を見出す過程で、その授業に固有な問題の枠組みを絶えず構成し、再編成している。

養護教諭の実践的思考の研究に、この研究手法を援用したのが、工藤ら⁷⁾の研究である。工藤はその場面を、保健室での対応場面で、熟練養護教諭と新人養護教諭の捉え方の差異を捉え、養護教諭の独自の＜実践的思考＞を明らかにしようとした。工藤は研究の結果、養護教諭の＜実践的思考＞について以下のような結論を導き出している。

- ① 熟練養護教諭は、実践過程における即興的な思考に優れていること。
- ② 熟練養護教諭は、子どもの身体的表現・発言内

容・雰囲気を敏感に受け止め、その表情の意味・発言内容に表現されている子どものニーズや養護教諭との関係などを解釈し推論する熟考的な思考を展開していること。

- ③ 熟練養護教諭は保健室に来室する多数の生徒のニーズをアセスメントし、優先順位をつけて対応しようとする思考を行っていること。

工藤らの研究は、佐藤の研究で示された熟練教師の思考様式とほぼ同様である。それに加えて保健室の対応場面では、子どもから出される多様な情報を子どものニーズと重ねて解釈していること、ニーズから判断し優先順位をつける思考などを明らかにした。

これらの先行研究から、熟練教師・養護教諭の分析・コメントは、＜実践的思考＞という視点から捉えると、その思考は専門的な能力のもう一つの表出と見ることができよう。

これまでに、健康相談活動で求められる養護教諭の専門的力量についての研究はなされているが、養護教諭の＜実践的思考＞と結びつけた研究はなされていない。そこで本研究は、＜実践的思考様式＞の「即興的思考」と「反省的思考」に注目し、健康相談活動場面における養護教諭の専門的能力を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

本研究は、佐藤らが行った研究方法【発話プロトコルの記録と分析】を援用した。そこで以下にその研究方法について説明する。

1). オンライン・オフライン・モニタリングシステムー発話データの記録と分析手法ー

佐藤は、教師の実践的思考様式の解明に一定の成果を上げているオンライン・オフライン・モニタリングシステムを採用している。

この方法は、他者の授業のビデオ記録を提示し、授業の再生を中断しないまま教師の思考の発話プロトコルを記録する【オンライン・モニタリング】と、授業のビデオ記録の観察直後に簡単な授業診断と感想を書く（または発話させる）【オフライン・モニタリング】を併用する。

この方法で得られる記録は、教師自身の授業記録を用いないため、思考と活動との直接的な関係を表現していないが、オンライン・モニタリングで記録される教師の思考は、その教師が自身の教室で行っている＜実践的思考＞を反映し、オフライン・モニタリングの

記録はその教師の授業後の反省スタイルを反映していると捉えられる。

また、このシステムによる初任者集団と熟練者集団の比較で得られる発話プロトコルの特徴は以下の3つである。

- ① 場面ごと教師の即興的思考を総体として記録できること。
- ② 場面ごとの思考がどう展開され、どう総括されるかが記録できること。
- ③ 同一の授業のビデオ記録を用いることにより、教材や子どもの具体性を保持したまま、同一の条件で、初任者集団と熟練者集団の実践的思考の比較が可能であること。

佐藤が実際の授業場面をモニタリングしたのに対して、本研究では、健康相談活動場面の「ロールプレイ」ビデオをモニタリングするという違いはある。しかし、熟練養護教諭と新人養護教諭の＜実践的思考＞の比較に、本システムの特徴を十分活用できると考えた。

養護教諭は子どもたちのニーズを判断する際、保健室に来室した一人ひとりの子どもの来室時の様子をよく観察して判断している。しかも、児童生徒と学校生活を共にすることによって得られる様々な情報を構造化した知識として蓄積し、それを思い浮かべながら瞬時にかつ的確にそのニーズを判断している。このシステムを活用することで、前述の3つの特徴を生かして分析が可能で、健康相談活動場面における養護教諭の＜実践的思考＞の特徴が明らかにできると考えた。

なお、本研究では、実際の保健室における健康相談活動場面ではなく、模擬的対応（ロールプレイ）を素材に用いた。思考と活動との直接的な関係を表現してはいないが、オンライン・モニタリングで記録される養護教諭の思考は、その養護教諭が自身の保健室で行っている健康相談活動の＜実践的思考＞を反映し、オフライン・モニタリングの記録はその養護教諭の実践後の反省スタイルを反映しているとみなしてよいであろう。

2). モニタリング用ビデオの作成

ロールプレイ型のビデオを選んだ理由は、実録型がプライバシーの問題や倫理的な面から難しいと予測されたからである。そのため本研究では、2人の大学院生が養護教諭役と子ども役になって、保健室における健康相談活動のロールプレイを行い、その様子をビデオに記録することにした。

健康相談活動場面のロールプレイは、学校現場でよく起こりそうな2つの事例とした。1つ目の事例は、小

学校4年女子で「腹痛」を訴えて保健室に来室するという設定のもので、2つ目の事例は、中学校2年女子で「気持ち悪い」と訴えて保健室に来室するという設定である。この設定内容を子ども役にだけ伝え、セリフなどは準備せず、子ども役と養護教諭役それぞれ自由に演じてもらった。

本研究でいう初期対応場面とは、訴えをもって初めて保健室に来室し、その対応をする初回時の対応とする。

ロールプレイの撮影時期は2008年2月である。事例はそれぞれ約12分間である。

3). 調査方法

(1) 調査対象者の選定

K県の小学校・中学校・高等学校の養護教諭で、協力承諾を得られた7名に調査を依頼した。熟練養護教諭は、勤務年数が概ね20年以上で、新人養護教諭は、勤務年数が3年未満の者とした。プロフィールは表1のとおりである。

なお、熟練者と新人を比較するにあたって押さえておくべきことがある。常に熟練者が優れ、新人がみな

表1. 調査対象者のプロフィール

	勤務校	勤務年数	平均勤務年数
熟練1	中学校	27年0ヶ月	約25年6ヶ月
熟練2	小学校	18年0ヶ月	
熟練3	中学校	31年8ヶ月	
新人1	高等学校	1年0ヶ月	約1年2ヶ月
新人2	小学校	1年0ヶ月	
新人3	中学校	1年9ヶ月	
新人4	中学校	0年9ヶ月	

未熟だと捉えて比較することには、問題があると考えられる。しかし、本研究では、熟練養護教諭の思考の特徴を新人養護教諭のそれと比較し明らかにすることを試みようとしている。そのため、本研究では新人養護教諭を未熟なものとして扱うこととした。

(2) 調査時期

2008年3月、11月、12月に調査を実施。

(3) 調査方法

調査方法は佐藤らの研究に準じ、オンライン・モニタリングとオフライン・モニタリングでデータを収集し分析を行った。発話の分析手順は下記の通りである。

- i 回収した発話データをその発話にできるだけ忠実に文字データとして再現する。
- ii 発話記録と記述レポートを意味のまとまりを持つ

句点で区切り、一単位一命題とする。ただし、一文に複数の命題が含まれている場合は、内容の変わる部分で区切り、そこまでを一命題とする。また、「ふ〜ん」「うん」などの感嘆詞が、他の文脈と関わりなく、独立して発話された場合は単位命題から除外した。

- iii 発話記録と記述レポートを文節で区切り、単位命題ごとの文節数を求める。命題数と文節数の両方を求めたのは、一命題の長さが、熟練養護教諭と新人養護教諭とでは異なると予測されたためである。なお、本研究では、文を読む時、自然な発音によって区切られる最小の単位（音文節）を文節とした。
- iv オンライン・オフラインで集められた発話記録と記述データの命題数と文節数の総量を「熟練養護教諭」「新人養護教諭」の2群に分け、比較する。
- v 一発言単位に似ている内容ごとに集めて、内容を代表する命題名を定める。さらに、その命題ごとに該当する発言数を求める。
- vi 命題ごとの数を熟練養護教諭と新人養護教諭とで比較する。（5つの命題と3つのカテゴリ）
- vii 一発言が複数の命題に関わる場合は、該当する分類にそれぞれカウントする。

なお、分類の確定にあたっては、論者と研究協力者2人（養護教諭の経験年数20年以上）を加え3人で行った。一発言ごとにどのような命題が含まれているのかを判断するにあたって、その客観性を高めるために、3つのステップをとった。

まず第1ステップは、3人に発話記録を渡し、各自で命題ごとに振り分けた。第2ステップは、第1ステップの結果を集約して、3人が一致しているものと一致していないものに分けた。第3ステップは一致しなかったものについて、それぞれの見解を述べ、3人全員が納得するまで話し合い、全員一致したもので分類を確定した。

なお文節数の数量分析では、一単位一命題で文節を数えたが、内容の検討にあたっては、一発言単位とした。その理由は、一発言の中に同じ内容が含まれていることが多かったこと、一つの発言の流れの中で、複数の内容があり、語られる内容と内容の重なりが見えなくなってしまうため、一つの発言全体の流れの中で語られる内容に注目した。

また、分析には統計ソフト Excel 統計 2008 を用い、ノンパラメトリック検定（Mann-Whitney 検定）を行った。

なお、表中においては、以後オンライン・モニタリング、オフライン・モニタリングをそれぞれ「オン」

「オフ」と表記する。また、熟練養護教諭、新人養護教諭もそれぞれ「熟練」「新人」と記す。

4. 結果と考察

1). オンライン・モニタリング、オフライン・モニタリング時の発話量の数量的比較

本研究では、新人養護教諭と熟練養護教諭の対象人数が異なるので、それぞれの発話数を平均した数値を使うことにする。

オンライン及びオフライン・モニタリング時に得られた発話プロトコルを一文節一単位として数量化したものを、表2、表3に平均文節数を示した。

その結果は、以下のとおりになった。

- ① 熟練養護教諭は、オフライン（198.0）よりもオンライン（441.3）が多い。
- ② 新人養護教諭は、オンライン（106.0）よりもオフライン（288.3）が多い。
- ③ いずれも有意差がみられた。
- ④ オンラインでは、新人養護教諭（106.0）よりも熟練養護教諭（441.3）が多い。
- ⑤ オフラインでは、熟練養護教諭（198.0）よりも

表2. 平均文節数にみるオンとオフの比較

	オン	オフ	
熟練	441.3	198.0	p<0.05
新人	106.0	288.3	p<0.05

表3. 平均文節数にみる熟練と新人の比較

	熟練	新人	
オン	441.3	106.0	p<0.05
オフ	198.0	288.3	

新人養護教諭（288.3）が多い。

- ⑥ 熟練養護教諭と新人養護教諭では、オンラインのみ有意差がみられた。

以上結果を受けて考察すると、佐藤、工藤両論文ではオンライン・オフラインともに熟練養護教諭の方が、平均文節数が多い結果となっていた。しかし、今回はオフラインでは、新人養護教諭の方が上回っていた。このことから健康相談活動場面でも、オンラインでは、熟練養護教諭は新人養護教諭よりも、活発な思考がなされていると推測される。このときの思考様式は、佐藤がいう「即興的思考」と言える。一方、新人養護教諭はオフラインでは、平均文節数が多かったことから、実践後の「反省的思考」は活発であるといえる。先行

研究結果との差異が出たことは、あとで考察を加える。

2). オンライン・モニタリング, オフライン・モニタリング時の発話プロトコルの内容分析

(1) カテゴリー及び命題の設定⁸

ここでは発言内容を5つに分類分けした。その5つとは、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞＜子どもの表出するサイン＞＜医学的視点＞＜教育的視点＞＜保健室独自の考慮／配慮＞で、これを命題とよぶ。この5つの命題に関わる要素は、文末資料1に示したとおりである。

さらに、この5つの命題を3つのカテゴリーに分類した。その3つとは、【子どもとの関係づくり】【子どもの状態の把握・理解】【子どもの発達支援】である。

なお、以後5つの命題の表記を表では、次のように示す。

- ・子どもとのコミュニケーション→コミュニケーション
- ・子どもの表出するサイン→サイン
- ・医学的視点→医学
- ・教育的視点→教育
- ・保健室独自の考慮／配慮→保健室

3つのカテゴリー、5つの命題の分類例は文末資料を参照されたい。

命題別に分類してみたところ、＜子どもの表出するサイン＞は中2の事例にしか発現しなかったので、これ以降は、4命題を検討対象とした。なお発話量と同様に、熟練養護教諭と新人養護教諭の対象人数が異なるので、それぞれの平均値の命題数を使うことにする。

表4. 熟練と新人におけるオンとオフの平均命題数

		熟練	新人	新人に対する熟練の比	p < 0.05
オン	実数	139	59	3.14	
	平均	46.3	14.8		
オフ	実数	137	205	0.89	
	平均	45.7	51.3		
合計	実数	276	264	1.39	
	平均	92.0	66.0		

(2) オンライン・オフラインの命題数

オンライン・オフラインでの発言内容の平均命題数の結果は表4に示す。

これらのデータから以下のような結果となる。

- ① オンラインとオフラインを合わせて比較すると、熟練養護教諭の平均命題数は92.0、新人養護教諭のそれは66.0である。熟練養護教諭は新人養護教諭の1.39倍、平均命題数が多い結果となった。
- ② オンラインでは、熟練養護教諭が46.3、新人養護教諭は14.8である。熟練養護教諭は新人養護教諭の3.14倍、平均命題数が多い結果となる。なお、両者の平均命題数には有意差がみられた。
- ③ オフラインでは、熟練養護教諭45.7、新人養護教諭51.3である。熟練養護教諭は新人養護教諭の0.89倍である。

以上の結果をまとめると、オンラインとオフラインで、熟練養護教諭と新人養護教諭では逆転し、活発な思考をするのは、熟練養護教諭ではオンラインで、新人養護教諭はオフラインのときである。また、熟練養護教諭は新人養護教諭の3倍以上の命題数があることから、熟練養護教諭は「即興的思考」を活発に行っているといえる。

(3) オンライン・オフラインの命題分布

表5. 平均命題数にみる命題分布（オンオフ計）

	熟練	新人	新人の対する熟練の比
コミュニケーション	26.0	13.8	1.9
医学	17.7	13.0	1.4
教育	15.3	17.5	0.9
保健室	33.0	21.8	1.5

次に命題がどのように分布しているかをオンラインとオフラインを合わせてみることにした。その結果が表5である。

各命題の平均数を熟練養護教諭に焦点をあて、結果をまとめてみた。

- ① 命題のなかで一番多いものは、＜保健室独自の考慮／配慮＞で、熟練養護教諭は33.0、新人養護教諭は21.8である。熟練養護教諭は新人養護教諭の1.5倍であった。
- ② 二番目に多いのは、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞で、熟練養護教諭では26.0、新人養護教諭は13.8である。熟練養護教諭は新人養護教諭の1.9倍となった。
- ③ 三番目に多いのは、＜医学的視点＞で、熟練養護教諭は17.7、新人養護教諭は13.0である。熟練養護教諭は新人養護教諭の1.4倍であった。

- ④ 最も少なかったものは、＜教育的視点＞で、熟練養護教諭は15.3、新人養護教諭は17.5である。熟練養護教諭は新人養護教諭の0.9倍であった。
- ⑤ 熟練養護教諭と新人養護教諭ともに、4つの命題の出現傾向は類似している。ただし熟練養護教諭の方が数値的には大きい。

＜教育＞を除いたすべてで熟練養護教諭の方が、数字が大きいことから、新人養護教諭よりも熟練養護教諭の方が、＜実践的思考＞が活発であるといえる。また、熟練養護教諭のオンラインでの平均命題数が多いことは、佐藤がいう「即興的思考」が豊かであると言える。

一方新人養護教諭は、オフラインの方が思考が活発で、その思考は佐藤がいうところの「反省的思考」といえるだろう。

また、命題の分布状況は、熟練養護教諭も新人養護教諭も類似していることから、この4つは子どもとの関わりにおいて不可欠な要素であると推測する。

さらに、4つの命題を比較してみると、熟練養護教諭で最も関心をもって思考している命題は、＜保健室独自の考慮／配慮＞で、次いで＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞であることから、養護教諭の専門的能力の特徴はここにあるとみてよいのではなかろうか。この命題をカテゴリーで捉えると、【子どもとの関係づくり】と【子どもの発達支援】に関わっていることになる。

(4) オンライン・オフラインでの思考様式の命題の関連

「即興的思考」と「反省的思考」の発現は、オンラ

表 6. オンとオフにおける新人と熟練との平均命題数の比較

	熟練オン	熟練オフ	新人オン	新人オフ
コミュニケーション	15.33	10.67	3.75	10.00
医学	8.33	9.33	4.75	8.25
教育	9.00	6.33	2.75	14.75
保健室	13.67	19.33	3.50	18.25

新人オン・オフの有意差 (p<0.05)

インとオフラインで異なると佐藤の研究は指摘している。そこで、熟練養護教諭と新人養護教諭それぞれのオンラインとオフラインを比較検討してみた。その結果が表6である。

この結果をみると、以下のことがわかる。

- ① 熟練養護教諭の場合では、オンラインとオフラインは類似している。しかし、オンラインでは、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞が、オフラインでは、＜保健室独自の考慮／配慮＞が突出している。
- ② 新人養護教諭の場合はオンラインよりもオフラインの方が大きく広がり、＜保健室独自の考慮／配慮＞は約6倍、＜教育的視点＞では約7倍の増加となる。

以上、熟練養護教諭は＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞について「即興的思考」が展開され、「反省的思考」としては＜保健室独自の考慮／配慮＞がその主要な内容となる。

一方、新人養護教諭では、オフラインで思考が活発になる。「即興的思考」は弱いものの「反省的思考」では熟練養護教諭のそれを上回る。特に＜教育的視点＞では熟練養護教諭を大きく上回る。ゆえに新人養護教諭が関心をもって、「反省的思考」を展開しているのは、＜保健室独自の考慮／配慮＞と＜教育的視点＞である。

以上を踏まえると、熟練養護教諭は、＜保健室独自の考慮／配慮＞を核とした「即興的思考」がされていることから、新人養護教諭が専門的能力を高めるうえで有効な方法は、＜保健室独自の考慮／配慮＞の視点からの「反省的思考」場面を意識的に持つことであると言える。

3). オンライン・オフラインのモニタリングの発話プロトコルの命題の「重なり」について

オンライン・オフラインの発言内容を検討した結果、一文に複数の命題が含まれていることがわかった。そこで、それを「重なり」と名づけ分析を試みた。

ここでは、「重なり」が熟練養護教諭と新人養護教諭にどのくらい差があるか比較し、オンラインとオフラインでの命題の分布の違いをみた。ここでは、「重なり」の実数の平均値で分析した。

表 7. 熟練と新人の重なり数の平均

	2つ	3つ
熟練オン・オフ計	23.00	5.33
熟練オン	7.33	3.67
熟練オフ	15.67	1.67
新人オン・オフ計	19.50	1.50
新人オン	3.75	0.25
新人オフ	15.75	1.25

表 8. オンとオフにみる重なり数

	2つ	3つ	計
オン	5.43	1.71	7.14
オフ	15.71	1.43	17.14

2つの重なりについては有意差 $p < 0.05$

(1) オンライン・オフラインでの「重なり」の発現

オンライン・オフラインにおいて熟練養護教諭と新人養護教諭に複数の命題の「重なり」が発現した。「重なり」が熟練養護教諭と新人養護教諭にどのくらい差があるか比較したものが表 7, 表 8 である。

- ① 熟練養護教諭と新人養護教諭の「重なり」の平均数をみると、いずれも新人養護教諭よりも熟練養護教諭の方が多かった。
- ② 2つの「重なり」では、熟練養護教諭は新人養護教諭の約 1.2 倍であった。
- ③ 3つの「重なり」では、熟練養護教諭は新人養護教諭の約 3.5 倍であった。
- ④ 熟練養護教諭と新人養護教諭のそれぞれのオンライン・オフラインを比較し共通して言えるのは、新人養護教諭も熟練養護教諭もオフラインの方が、2つの「重なり」が多いということである。
- ⑤ 3つの「重なり」では、熟練養護教諭はオンラインの方が多い。
- ⑥ オンライン・オフラインにわけてみると、2つの「重なり」は、オフラインの方が有意に高い。3つでは顕著な差はない。

ここまですと考察すると、オンライン・オフラインを合わせた場合、熟練養護教諭の方が2つないし3つの命題を含む発言をしていることになる。つまり熟練養護教諭は、複数の命題を同時に思考する複雑な思考様式を活発にしているということになるだろう。

そもそも「重なり」という現象は、多面的で複合的思考があってはじめて表出されるものである。その「重なり」が熟練養護教諭に多く発現することから、その思考様式や命題は、健康相談活動で発揮される専門的能力と捉えることができる。オンラインでの思考様式は、「即興的思考」であるがゆえに、そこでの「重なり」は、即興的になされた結果といえる。それは、経験を積んだ熟練養護教諭だからこそ、現れる思考であろう。

オフラインの思考は、「反省的思考」である。しかも、オフラインの方が、「重なり」が多く発現していることから、「反省的思考」でも複数の命題を絡めた思考を活発にしていると推測されよう。

このようにみると、熟練養護教諭はオンラインの方

が発話数、命題数も多く、結果、「即興的思考」が、活発になされる傾向がみられた。しかし、「重なり」というより複雑な思考様式では、熟練者は「反省的思考」を活発にしており、それが特徴ともいえる。先に指摘した記述の文節数では、新人養護教諭の方が「反省的思考」が上回った結果が出たものの、「重なり」という複雑な思考様式の発現レベルを含めた「反省的思考」の検討が必要であろう。

(2) 新人養護教諭と熟練養護教諭の「重なり」

次に、重なり合う命題について分析を行い、熟練養護教諭と新人養護教諭のそれぞれ対比させてみた。表 9～表 13 に示す。

結果は以下のとおりである。

- ① オンライン・オフラインを合わせた状態の「重なり」の命題分布状況は、両者とも類似している。
- ② 両者ともに＜保健室独自の考慮／配慮＞が突出している。
- ③ ＜教育的視点＞では、新人養護教諭は熟練養護教諭よりも上回る。
- ④ オンラインでは、両者ともほぼ類似しているが、熟練養護教諭は圧倒的に思考内容が多い。
- ⑤ オフラインでは、熟練養護教諭と新人養護教諭は、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞＜医学的視点＞＜保健室独自の考慮／配慮＞については、同レベルであるものの、新人養護教諭は熟練養護教諭よりも＜教育的視点＞については約 2 倍である。

以上「重なり」にみる命題分布状況では、最も顕著な違いは、オンラインとオフラインで新人養護教諭と熟練養護教諭の逆転が起きていることである。このことは、熟練者が「即興的思考」でも「反省的思考」でも複雑な思考様式を展開しているのに対して、新人養護教諭は「反省的思考」段階になって初めて活発に

表 9. 熟練と新人にみる命題別重なり数－オン・オフ計－

	コミュニケーション	医学的視点	教育的視点	保健室
熟練	18.3	14.0	11.0	29.3
新人	12.8	9.8	16.5	21.8
新人に対する熟練の比	1.44	1.44	0.67	1.35

表 10. 熟練と新人のオン状態にみる命題別重なり数の平均

	コミュニケーション	医学的 視点	教育的 視点	保健室
熟練オン	7.7	4.7	4.7	10.0
新人オン	2.8	1.5	1.8	3.5
新人に対する熟練の比	2.79	3.11	2.67	2.86

表 11. 熟練と新人のオフ状態にみる命題別重なり数の平均

	コミュニケーション	医学的 視点	教育的 視点	保健室
熟練オフ	10.67	9.33	6.33	19.33
新人オフ	10.00	8.25	14.75	18.25
新人に対する熟練の比	1.07	1.13	0.43	1.06

表 12. 熟練のオン・オフにみる命題別重なり数と比率

	コミュニケーション	医学的 視点	教育的 視点	保健室
熟練オン	7.7	4.7	4.7	10.0
熟練オフ	10.67	9.33	6.33	19.33
オンに対するオフの比	1.39	2.00	1.36	1.93

表 13. 新人のオン・オフにみる命題別重なり数と比率

	コミュニケーション	医学的 視点	教育的 視点	保健室
新人オン	2.75	1.50	1.75	3.50
新人オフ	10.00	8.25	14.75	18.25
オンに対するオフの比	3.64	5.50	8.43	5.21

なる。一方、熟練者はオンライン段階で複雑な思考を含む発言をしてあるために、オフラインでの記述には重複を避けた結果、新人養護教諭より文章量が減少したと考察する。

オンライン・オフラインでの発話文節数の量的分析と4つの命題およびカテゴリーの分析結果についてさらに考察を進めてみよう。

熟練養護教諭のオンライン・オフラインを比較するとオンラインでは、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞が、オフラインでは＜保健室独自の考慮／

配慮＞に顕著な突出が見られることから、「即興的思考」と「反省的思考」とでは、その内容の重点が変化しているといえる。＜保健室独自の考慮／配慮＞が、「反省的思考」の内容として高まるということは、養護教諭の専門性の核心はそこにあるといえるのではないかな。

熟練養護教諭のオンライン・オフラインに共通していることは、【子どもとの関係づくり】と【子どもの発達支援】に関わることを核にして思考している点である。これは「命題の重なり」にも現れている。ここでも「重なり」あう命題は、＜子どもとのコミュニケーションの取り方＞と＜保健室独自の考慮／配慮＞である。つまり養護教諭の思考内容の特性のひとつは、【子どもの発達支援】と【子どもとの関係づくり】の《両者が絡まりあった領域》にあるとみてよいのではなかろうか。

また、注目すべきことは、熟練養護教諭は、実は「反省的思考」に優れていることだ。それは「重なり」の出現をみると、「即興的思考」よりも「反省的思考」のほうが1.6倍多いからである。

一方、新人養護教諭はオンラインとオフラインに差異がでる。それはオフラインでの思考、言い換えれば、「反省的思考」では「即興的思考」を大きく上回る活発な展開がなされており、新人養護教諭の特徴といえる。「反省的思考」では、＜教育的視点＞と＜保健室の独自の考慮／配慮＞が飛躍的に伸びる。これはカテゴリーレベルでいえば、【子どもの発達支援】にその思考の核が置かれているといえる。「教師としての養護教諭」として、子どもとの対応のあり方を反省的に思考しているといえる。

さらにこれらの結果から、新人養護教諭が専門的能力を高めていく上で、「反省的思考」の活発化がポイントとなる。それは、熟練養護教諭での「重なり」の出現が、「反省的思考」に多く出現する結果から導くことができる。

5. 結論

- 以上の結果と考察から、本研究の結論を述べる。
- 1). 健康相談活動場面でも、熟練養護教諭は新人養護教諭よりも活発な思考活動をしており、「即興的思考」では、新人養護教諭を大きく上回る。
 - 2). 「即興的思考」と「反省的思考」では、強い関心を持って思考される命題が異なる。養護教諭の専門性の核心は、＜保健室独自の考慮／配慮＞であると推測される。なぜならば、この命題が、「反省的思考」で最も関心を持って思考されるからで

ある。

- 3). 養護教諭の思考内容の特性は、【子どもの発達支援】と【子どもとの関係づくり】の《両者が絡まりあった領域》にあると推測する。なぜならば、「即興的思考」・「反省的思考」を通して、熟練養護教諭は、この2つのカテゴリーを核にして思考しているからである。
- 4). 新人養護教諭の特徴は、「反省的思考」が「即興的思考」を大きく上回り、かつ、【子どもの発達支援】に思考の核が置かれていると点である。
- 5). 【子どもの発達支援】と【子どもとの関係づくり】の視点からの「反省的思考」と＜実践的知識＞が重なりあって「即興的思考」の高まりにつながる。ゆえに新人養護教諭の専門的力量を高める上で、事後の「反省的思考」をしっかりと行うことがその一歩となるといえる。

6. 終わりに

本研究を終わるにあたって、以下に主な研究の課題を簡潔に述べる。

- ① 調査結果の妥当性を高めるための対象者の拡大
- ② 4つの命題を網羅した模擬対応の検討
- ③ 調査対象者の負担感を配慮した調査内容の検討

最後に今後のこの研究を深めるために、さらにこのテーマに関わる論文や参考文献を収集し、検討を重ねていきたい。

引用・参考文献

- 1 三木とみ子・徳山美智子, 2007, 「健康相談活動の理論と実際」, ぎょうせい, pp1 - 31.
- 2 大谷尚子・森田美津子他, 2004, 「養護教諭の行う健康相談活動」, 東山書房, pp21 - 22.
- 3 これらの研究として、主なものを以下にあげる。
 - 1) 森田光子・大谷尚子・吉田あや子他, 1999, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第1報 - 文献研究から捉える養護教諭の力量 -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第2巻1号, pp30 - 38.
 - 2) 森田光子・大谷尚子・塩田瑠美他, 1999, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第2報 質問紙調査から捉えられる養護教諭の力量」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第2巻1号, pp39 - 45.
 - 3) 大原栄子・竹田由美子・大谷尚子他, 2000, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第3報 - 日常事例の分析から -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第3巻1号, pp47 - 59.
- 4) 塩田瑠美・小幡美奈子・森田光子他, 2000, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第4報 - 長期にわたる支援事例の分析から -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第3巻1号, pp60 - 71.
- 5) 吉田あや子・大谷尚子・森田光子他, 2000, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第5報 - 力量形成めざした養成教育の実態 -」, 『日本養護教諭教育学会誌』第3巻1号, pp72 - 86.
- 6) 竹田由美子・大谷尚子・森田光子他, 2001, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第6報 - 「健康相談活動の理論及び方法」に対する授業 -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第4巻1号, pp59 - 68.
- 7) 竹田由美子・大谷尚子・吉田あや子他, 2002, 「相談にかかわる養護教諭の力量形成 第7報 - 養護実習等の機会を活用した養成教育の実態 -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第5巻1号 pp39 - 49.
- 8) 塩田瑠美・大谷尚子・森田光子他, 2003, 「実践をとおして培われる養護教諭の相談活動に関する力量 - 力量形成のきっかけとなる「出来事」について -」, 『日本養護教諭教育学会誌』, 第6巻1号, pp59 - 71.
- 4 佐藤らの論文は、以下の通りである。
 - 1) 佐藤学・岩川直樹・秋田喜代美, 1990, 「教師の実践的思考様式に関する研究 (1) - 熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に -」, 『東京大学教育学部紀要』, 第30巻, pp177 - 198.
 - 2) 佐藤学・秋田喜代美・岩川直樹・吉村敏之, 1991, 「教師の実践的思考様式に関する研究 (2) - 思考過程の質的検討を中心に -」, 『東京大学教育学部紀要』, 第31巻, pp183 - 200.
- 5 佐藤らの研究に影響を受けた研究論文を挙げる。
 - 1) 秋田喜代美・佐藤学・岩川直樹, 1991, 「教師の授業に関する実践的知識の成長 - 熟練教師と初任教師の比較検討 -」, 『発達心理学研究』, 第2巻2号, pp88 - 98.
 - 2) 赤田信一・森昭三, 1996, 「保健科教育における熟練教師と初任者の実践的思考様式に関する比較研究」, 『日本学校保健研究』, 第38巻, pp481 - 494.
- 6 佐藤学は反省的思考に関しては、ドナルド・ショーン, 佐藤学・秋田喜代美訳, 2001, 『専門家の知恵 - 反省的实践家は行為しながら考える -』, ゆみる出版を参照されたい。
- 7 工藤宣子・栗林徹・森昭三, 2006, 「保健室活動場面における熟練養護教諭と新人養護教諭の実践的思考に関する比較研究」, 『学校保健研究』, 第48巻, pp290 - 306.
- 8 命題、カテゴリーは以下の定義に準じた。

命題：

- (1) 題をつけること、また、その題
- (2) 判断を言語的に表現したもの、論理学では真

偽を問いうる有意味な文をさす、また、その文が表現する意味内容をさす場合もある。

カテゴリー（範疇）：

- (1) 同じ性質のものが属する部類、部門、領域。

資料 カテゴリー・命題の分類と具体例

カテゴリー名	命題名	この命題にかかわる要素	具体例
子どもとの関係づくり	子どもとのコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーション、立ち位置、目線など	まず言葉かけが優しいですね。
			目線、目の高さを合わせて話してるっていうのはいいですね。
			座る位置はいいんじゃないかと思います。斜め横というかな。
子どもの状態の把握・理解	子どもの表出するサイン	表情、口調、体の動きや姿勢など	（生徒が）こういうしゃべり方をする子に対しては、何かあるかなという感じで最初に考えることが多いかな。きちんとしたしゃべり方じゃなくて。
			（生徒が）もうきついているのを訴えている。
			触診はもう少し念入りに時間をかけ場所を決めて、ここはどうかにかするといいですね。
	医学的視点	バイタルサイン、身体症状、問診事項	緊急度を確認するのが1番最初にあったほうがいいと思うんですよね。
			体温は測ってないですね？
子どもの発達支援	教育的視点	発達段階、自立支援、教師としての指導など	先生にちゃんと言ってきたっていうのを先に確認しとくといいと思います。
			どうしたら（問題を）解決できるかをいくつか選択肢をあげて（生徒に）考えさせても良かったかもですね。
			休養をとるときは中学生なので、担任、教科担任への連絡を自分で報告に行くかどうか尋ねてから、休養させる必要がある。

カテゴリー名	命題名	この命題にかかわる要素	具体例
子どもの発達支援	保健室独自の考慮／配慮	保健室の立場、	「いつでもきていいよ」は安心感を与えますよね。子どもには。
			教室（担任）の方と連絡を取ったりとか確認も少し（必要）。
			保健室が優しく受け入れてくれる場なので、この子は話しに来たと思う。
		養護教諭の独自の立場、	できるだけ落ち着いた雰囲気をもって対応する
			”一時間休んどきなさい”ではなくて、お腹をさすってするだけでも安心する。
			腹痛の原因を考えさせるのは、児童に身体を知ってもらうためには大切。

- (2) 概念のうちで最も一般的・基本的な概念。